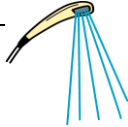


頸管縫縮術クリニカルパス

氏名		様			
	入院日	手術日	術後 1 日目	術後 2 日目	術後 3 日目
観察	入院後に体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度、呼吸数を測り、お腹の張りや痛みを観察します	定期的に体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度、呼吸数を測り、お腹の張りや痛みを観察します 手術後から、ベッド上安静になります 麻酔が切れてきたら、血栓予防の為に積極的に足を動かしたり、体の向きを変えたりしましょう	1 日 3 回体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度、呼吸数を測り、お腹の張りや痛みを観察します	1 日 1 回体温、脈拍、血圧、血中酸素飽和度、呼吸数を測り、お腹の張りや痛みを観察します お腹の張りに合わせて日常生活を送りましょう	
食事	手術前日夜 9 時以降から手術後 1 病日の朝まで、食事や水分をとることができません		朝から食事が始まります		
清潔	シャワーを使用できます		体を拭きます	シャワーを使用できます	
排泄	トイレに行けます	手術中から排尿用の管が入ります	朝、排尿用の管を抜いた後トイレに行きます尿意を自覚しにくいことがあります。管を抜いた後 3 時間以内にはトイレに行きましょう 初めてトイレに歩く時は、看護師をお呼びください		
診察・処置	医師による診察があります		排尿用の管を抜きます 医師による診察があります		
検査					採血をします
薬物療法		午後から手術開始の場合は、手術前に点滴を開始します 手術後、おなかの張りを抑える点滴、水分補給の点滴を 3 本、抗生剤を行います 痛み止め・吐き気止め等適宜使用できます	抗生剤の点滴を行います。必要に応じてお腹の張りを抑える点滴を続けます	必要に応じてお腹の張りを抑える点滴を続けます。もしくはおなかの張りを抑える薬の内服が始まります	
説明	病棟のご案内、必要書類の確認をします 入院診療計画書をお渡しします			お腹の張りに合わせた生活について説明します 切迫早産徴候（お腹の張り、お腹の痛み、性器出血）について説明します。 薬剤師から薬の説明があります。	
目標	手術の経過がわかる	子宮収縮に伴うお腹の痛みを訴えることができる。柵をかけベッド上で安全に過ごすことができる	トイレまで転倒なく歩行ができる	お腹の張りに合わせた日常生活を送ることができる 切迫早産徴候がわかる 転倒なく歩行ができる	

症状・経過によってはスケジュール通りにならない場合があります

2004年5月作成(2020年2月改訂) パス委員会承認 聖隷浜松病院 C5 病棟